

国語科学習指導案

6年2組 28名 指導者 岡留真吾

本授業では、以下の検証を行うものである。
最終段落の筆者の意見に対して自分の考えをもち、筆者の論理構成のよさを生かしてまとめることができたか。

1 単元 文章を読んで、自分の考えをもとう 「生き物はつながりの中に」 2 目 標

教材文が生き物の特徴を説明している部分とそれを通して筆者が伝えたい意見の部分で構成されていることをとらえ、筆者の意見の部分である自分が生き物として生きることについて自分なりの考えをまとめることができるようにする。(書ウ)

3 単元の評価規準

- 筆者が問いかけていることに関心をもち、文章を読んで考えようとしている。
【国語への関心・意欲・態度】
- 筆者の意見に対して、事実と感想、意見の関係を押さえて自分なりの考えを書いている。
【書く能力】
- 教材文が生き物の特徴を説明している部分とそれを通して筆者が伝えたい意見の部分で構成されていることを捉えている。
【読む能力】
- 生き物の特徴を理解し、筆者の思いをとらえ、それに対する自分の考えをもち、友達と交流して考えを深めている。
【読む能力】
- 文章全体の構成と段落の役割を理解している。
【言語についての知識・理解・技能】

4 単元について

(1) 単元の価値

本単元は、筆者が自分の意見を読者に理解してもらうために、どのような論理構成で書いているのかを読み取るとともに、その論理構成を生かして筆者の意見の部分に対する自分の考えをもつことをねらいとしている。

教材「生き物はつながりの中に」は、生き物の特徴をつかませるために、本物のイヌとロボットのイヌを比較しながら説明しているため、子どもが興味をもって読み進めることができる。また、文章構成が「問題提起」「問題の解明」「まとめ・意見の表明」となっており、子どもにとって分かりやすく、最終段落に筆者の意見が明確に示されているので、筆者の意見に対して自分の考えをもつという学習に適している。



子どもたちは、第5学年「サクラソウとトラマルハナバチ」で、文章構成に注意しながら要旨をとらえ感想をもつ学習を、「ニュース番組作りの現場から」で内容を過程ごとに整理しながらまとめる学習を経験してきた。

本単元では、これまでの学習経験を生かしながら、「生き物の特徴は何か」という読みのめあてをもたせながら、主体的に読み進めるようにさせたい。そして、事実を説明しているまとめりとそれを通して意見を述べているまとめりを意識させ、書かれている内容の違いを分析的に読み取らせていきたい。そのような活動を通して、筆者の意見を的確につかませ、それに対する自分の考えを事実と感想、意見の関係を区別してまとめさせ、交流によって読み深めさせたい。ここでの学習は、2学期単元「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」での「筆者の考えをとらえ、それに対して自分が考えたことを発信する」学習につながっていく。

(2) 子どもの実態と指導

本学級では、多くの子どもたちが説明的な文章の楽しさを知っており、読もうとする意欲は高い。しかし、能力面の調査からは、「話題提示」「事例の説明」「事例の説明のまとめ」「筆者の考え」という構成を十分にとらえることができない子どもも見られる。また、筆者の考えを一般化し、自分の生活に重ねて考えることができる子どもは少なく、単に筆者の意見に同意しているだけの子どもが多い。そこで、説明的な文章を組み立てている「事実に関するまとめり」や「考えに関するまとめり」を丁寧におさえながら、その違いを分析的に読み取る過程を大事にしたい。また、筆者の意見部分に関しては、自分の生活経験やこれまでに読んだ本の内容などと関連付けながら自分のこととして考えることができるような手立てを取りたい。

5 指導計画（総時数6時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
課題をつかむ	1 教材文を読んで、筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。 2 学習のめあてを決め、学習計画を立てる。 生き物のつながりについて筆者の考えに対する自分の考えをまとめ、交流しよう。 【関：筆者の考えに対する自分の考えをまとめる活動を通し、読みに対する自分の実態を自覚し、目的意識をもって学習計画を立てている。（活動の様子、ノート）】	1
	筆者の考えに対して自分の考えをまとめる活動をさせることで、自分の読みの課題意識をもたせるようにする。また、単元終末で書き上げた自分の意見文を新聞に投稿することを伝え、相手意識と目的意識をもたせる。 	
情報をもとに考える	3 問題提示文から生き物の特徴を捉える。 【読：問題提示文から生き物の3つの特徴を捉え、おおまかな文章構成をとらえている。】	1
	4 筆者の論理構成の工夫を捉える。 【言：事実のまとまりと意見のまとまりで構成されていることを読み取っている。】	1
	5 自分の意見を補ったり深めたりする引用の仕方について知る。 【読：引用の意義やルールが分かり、事実と意見の読み分けや書き分けができています。】	1
	文末表現の違いから、事実を説明している文と意見を述べている文の違いを捉えさせ、教材文を組み立てている「まとまり」を意識させるようにする。 	
主体的に表現する	6 筆者の意見に対する自分の考えをまとめる。 【書：最終段落の筆者の意見に対して自分の考えをもち、事実と感想、意見の関係を押さえて自分なりの考えをまとめている。（ワークシート）】	1 (本時)
	7 筆者の意見に対する自分の考えをもち、交流する。 【読：筆者の意見を基にした自分の考えを交流し、友達と自分の考えを比べ、生き物はつながっていることについて考えを深めている。（活動の様子、ワークシート）】	1

6 本 時（5/6）

(1) 目 標

筆者の意見に対する自分の考えを事実と感想、意見の関係を押さえてまとめることができる。

(2) 評価規準

筆者の意見に対する自分の考えを自分の生活経験などと関連付けながら、事実と感想、意見の関係を押さえてまとめている。 【書く能力】

(3) 指導に当たって

導入では、他学級の児童が書いた根拠が明確な意見文を読むことで、より説得力のある自分の考えを書いてみたいという意欲を高めるようにする。

展開では、説得力のあるモデル文を提示し、意見のまとまりと意見部分を支える事実のまとまりで構成されていることに気付かせるようにする。さらに自分の考えをもつための手順として、筆者の意見に対して自分の生活体験や本やニュース、新聞等から考えたことと重ねていくことで自分の感想や意見がもてることに気付かせるようにする。

筆者の意見に対する自分の考えを生活経験などと関連付けながら、事実と感想、意見の組立てをまとめている子どもには、自分の考えを交流させ、お互いの内容や分かりやすさについてアドバイスを送るようにさせる。まとめられない子どもには、学習ボードで筆者の意見を確認させたり、つながりや命などに関わる具体的な生活経験を聞き出し、教師と一緒に考えさせたりする。

終末では、早く書き上げた子どもの考えを発表させることで、主張の分かりやすさを実感させ、説明的な文章をまとまりに気を付けて読んだことで、論理的に話したり書いたりする力に生かされたことを伝える。

(4) 本時の展開

[] 子どもの意識



教師の手立て

※評価

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価
(分)		
5	導入	<p>1 他学級の児童の意見文を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 説得力のある意見だな。どうしてこんなに分かりやすい文章なんだろう。 自分もこんな説得力のある文章を書いてみたいな。 <p>2 学習のめあてと進め方を確かめる。</p> <p>筆者の考えに対して、より説得力のある自分の意見を伝えるには、どうしたらよいだろう。</p> <p>他学級の児童が書いた根拠が明確な意見文を読むことで、より説得力のある自分の考えを書いてみたいという意欲を高めるようにする。</p>
35	展開	<p>3 説得力のあるモデル文からどのような文章のまとまりで構成されているのかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで学習したことが生かせないかな。 どうやって書けばいいのかな。 <p>最後のまとまりは意見のまとまりだね。</p> <p>最初の文は、意見を支える根拠になる部分だね。本から引用して書かれているよ。</p> <p>筆者の考えに対し、関連する自分の知識を結びつけると自分の感想や意見がもてるね。</p> <p>4 説得力のないモデル文から、分かりにくさの原因を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事実の文と意見の文につじつまが合わない。 事実の文が意見を支える理由になっていない。 意味のつながりを大事にしないとイケない。 <p>5 筆者の意見に対する自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者の「あなた以外のすべてとつながっている。」という言葉と、本で読んだ生き物の食物連鎖の関係を結びつけて考えることができた。 他の命のありがたみを知って生きることが大切だと思いました。 <p>6 学習の成果を話し合う。</p> <p>事実と感想、意見の組み合わせを考えて書く。</p> <p>学習ボードで再度筆者の考え方を確認し、筆者の考えに対して、自分の生活経験や本やニュース、新聞等から考えたことと重ねていくことで自分の考えにより説得力をもたせることができることをおさえる。</p> <p>また、引用のルールや事実と感想、意見の関係を区別することなども押さえる。</p> <p>※ 筆者の意見に対する自分の考えを自分の生活経験などに関連付けながら、事実と感想、意見の関係を押さえてまとめている。(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめられている子どもには、自分の意見を交流させ、お互いの内容や分かりやすさについてアドバイスを送るようにさせる。 まとめられない子どもには、学習ボードで筆者の意見を確認させたり、つながりや命などに関わる具体的な生活経験を聞き出し、教師と一緒に考えたりする。
5	終末	<p>7 次時の学習と生活化への意識をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の時間で完成させたいな。 友達はどんな考えをもっているのかな。 筆者の書きぶりが自分の表現に生かされたぞ。いろんな教科等での発表にも生かそうぞ。 <p>早く書き上げた子どもの意見文を発表させることで、主張の分かりやすさを実感させ、教材文を事実と意見のまとまりに気を付けて読んだことで、論理的に話したり書いたりする力に生かされたことを賞賛する。</p>